

B 地理歴史科の北方領土学習

B-1 「地理 A」教育活動計画

(h22 清野 雅仁 作成)

平成 22 年度 確かな学力を育む高校教育推進事業
北海道根室西高等学校 北方領土学習にかかわる教育活動計画

1 教育活動の種類 (教科・総合的な学習の時間・特別活動・部活動・その他)

2 教育活動名 地理 A

3 活動のねらい 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、学習活動を通して思考力・判断力・表現力等の能力の育成に努め、主体的に学習に取り組む意欲や態度を育む。

4 活動の主な内容 国家の領域を正しくとれえるとともに、地域区分の概念を理解する。その際、北方領土の島名および位置を確実に習得させ、地図等を活用し4つの条約による国境の歴史的な変遷を読み取り、「北方領土」が我が国の固有の領土であることを認識する。また、北方領土の現状を「ビザなし交流」やDVD等の視聴覚教材を活用して理解するとともに、北方領土問題を多角的に探求する。

5 生徒の到達目標 (身に付けてほしい力)

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
北方領土の領域や地域区分の概念について関心を高め、意欲的に取り組んでいる。	北方領土の領域・地域区分に関する地理的事象から課題を設定し、追求している。	北方領土の正確な位置や名称を正しく捉えるとともに、日本を様々な指標で地域区分し、まとめたり発表したりしている。	国家の三大構成要素や地域区分の概念に関する知識を身につけさせる。

6 年間活動計画

月	活動内容	生徒の到達目標 (生徒の活動の望ましい姿)				評価方法
		関・意・態	思・判	技・表	知・理	
6	国家と地域区分	北方領土に関心を高め、意欲を持って臨み、態度もしっかりと身につけている。	北方四島の正確な位置や名称、歴史的国境の変遷を身に付け、課題を自ら見いだし、解決しようとしている。	北方四島の正確な位置や名称、国境の歴史の変遷、ビザなし交流など考察した結果について、様々な方法で適切に表現する方法を身につけることができる。	歴史的背景をふまえ、北方四島の正確な位置や名称など基本的な地理的認識を深め、身につけることができる。	○授業の参加状況 ○ノートの提出 ○ワークシートの提出
11	レディネステストの実施					
12	北方領土学習歴史概論					
2	北方領土学習地理概論 再確認テストの実施					

※生徒の到達目標については、H18「高等学校教育課程編成・実施の手引」等を参照

※部活動等については、評価方法の部分の記載の必要はない

7 指導上の留意点

- ・日本の位置と領域について、世界的な視野から日本の位置をとらえさせるとともに、日本の領域問題である方領土を考察させる。
- ・基本的事項・事柄を精選して、北方領土学習の内容を構成する。
- ・地図等の資料を活用し、多面的・多角的に北方領土を考察するとともに、地理的スキルを身につけさせる。
- ・資料を選択・収集し、それらを読み取り解釈させる。また、客観的かつ公正な資料を適切に活用し、事実の正確な理解に導くよう配慮する。

1 学習指導案について

以下の指導案は、北方領土学習初級編ないし再学習を目的に作成された。本校の生徒の心身の発達の段階及び特性を考慮した結果であり、主に北方領土復帰期成同盟が作成した『小学生の学習資料 北方領土ってどんなところ 2009年版』を参考にしている。「高校生なのに、小学生向けの資料を使う」ことに抵抗のある先生方も多いとは思いますが、初級編としては非常に良くまとめられたわかりやすい教材である。

以下、2回分の学習指導案の展開例である。指導案の形式は、今後のアレンジに期待し余白の多い略案とした。

.....

地理歴史科学学習指導案（地理 A）

(1) 単元名 『国家と地域区分「北方領土」』

*使用教科書 46 帝国 地A-013 『高等学校 新地理A 初訂版』 帝国書院

46 帝国 地図-011 『地歴高等地図－現代世界とその歴史的背景－』 帝国書院

(2) 単元観 本単元は、学習指導要領の「(1) 現代社会の特色と地理的技能 ア 球面状の世界と地域構成」に位置づけられている単元である。本来ならば、4月、5月の段階に終了してしまう単元なのだが、本校の「北方領土学習」の取り組みの関連で、一部内容を保留し、12月のこの時期に実施することとなった。この「北方領土学習」は長く義務教育段階において実践を積み重ねられてきた分野である。昭和50年と昭和60年に北海道教育委員会から発行された『学校教育指導資料「北方領土」』や「根室管内北方領土学習研究会」の実践においても義務教育段階での実践が主であり、高等学校での実践がなかなか見当たらないのが実情である。

今回の取り組みは、「根室管内北方領土学習研究会」が今年度打ち出した「北方領土で学習する」という理念の継承を図ろうと考え、高等学校として何ができるのかと考えたものである。「北方領土」という国家的課題を学習課題に据え、いかにして「確かな学力」を育むことができるのかという教育課題の研究である。

(3) 生徒の実態（レディネステストから見えた本校の実態）

今回の北方領土学習の指導計画を考えるにあたり、生徒の実態を把握するために事前にアンケート形式のレディネステストを本校の1学年の生徒に対して行った（巻末補足資料1参照）。このレディネステスト自体は、北方領土学習を本校1学年で実施するにあたり、領土の場所と名前をどれだけの生徒がしっかりと定着できているのだろうかという疑問と、本事業のサポートチームのアドバイスもあり実施したものである。

根室市及び根室管内は「北方領土学習研究会」という義務教育の教員を中心とした昭和59年以来の歴史ある研究会が存在しており、他の管内に比べて「北方領土学習」の盛んな状況にある。そのため、領土の名称や位置については、「知っているだろう」「知っているはずである」という思いこみが私の中にもあったのも事実である。しかしながら、調査を進めてみると必ずしもそうではなく、「知っているだろう」「知っている

はずである」という思いこみがあった私にとっては衝撃的な調査結果だったのである。

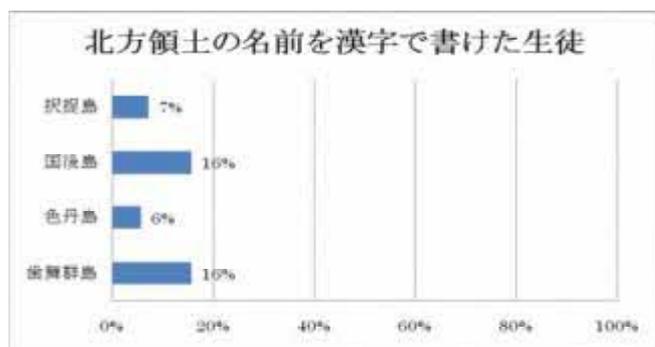
生徒側に調査の範囲は当日の欠席状況もあり、有効回答率は70名程度であったが、結果として本校の北方領土の知識の定着を知る、有効な手段となったのである。下記のグラフは、レディネステストの結果である。このレディネステストの原型は、本校の熊澤正明教諭が「時事問題研究」(学校設定科目)で行っていたものを、紙面化し実施したものである。北方領土の位置を的確にとらえられた生徒は表1でよみとれるように約30%、北方領土の名前を漢字で書けた生徒は表2でよみとれるように約10%という結果に落ち着いた。

会員教員のいる学校の出身生徒は比較的定着率はよいが、そうでない場合においては「北方領土学習」の記憶すらないといった具合である。当初、義務教育段階の最低限の既習事項をもとに授業展開を行う予定であったが、出身中学校によって知識の蓄積にバラツキがかなりあったため、復習も兼ねた基礎的基本的事項に厳選した授業展開を行うことにした。

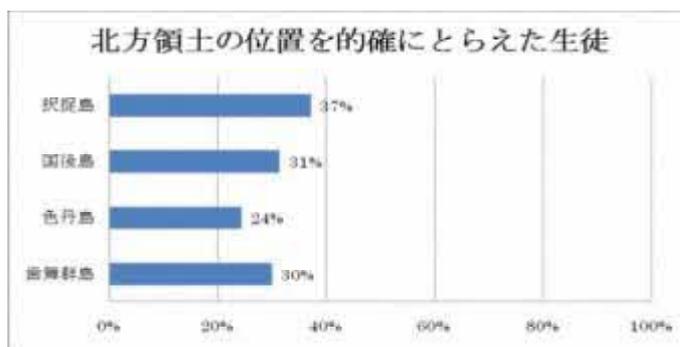
1時間目の授業については、生徒のアンケートの実態調査を踏まえ、「北方領土四島の位置と名称」を定着させるところから始めた。この領土の位置の名称の定着は、小学校学習指導要領や中学校指導要領でも取り上げられている部分である。また、我が国が「固有の領土である」と主張する根拠を学習するとともに、近代における北方領土の歴史的な変遷を確認させることに留意した。

2時間目の授業については、1時間目で行った「北方領土四島の位置と名称」を繰り返し学習として知識の定着がはかれるよう留意した。また、この2時間目は「地理概論」として位置づけたため、北海道と北方領土の距離を調べたり、その距離を実感するために身近な地域(北方領土との距離以外で)でその距離を考えさせるなど、地図を活用しながら学習を行うように留意した。また、「高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」を活用することにより、映像を通して現在の北方領土を高校生の視点で認識したり、元島民の方々への聞き取りやロシア人の主張に触れ、発展的に北方領土問題を考えることができるように工夫した。

▼表1



▼表2



A 小学校社会科

<小学校学習指導要領（平成20年3月公示）>

【第5学年】

2 内容

- (1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

ア 世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，我が国の位置と領土

3 内容の取扱い

- (1) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの「主な国」については、近隣の諸国を含めて取り上げるものとする。その際、我が国や諸外国には国旗があることを理解するとともに、それを尊重する態度を育てるよう配慮すること。

<小学校学習指導要領解説・社会編>

【第5学年】

2 内容

「我が国の位置と領土」を調べるとは、我が国の国土を構成する北海道、本州、四国、九州、沖縄島、**北方領土などの主な島の名称と位置**、我が国の領土の北端、南端、東端、西端、日本列島の周りの海を取り上げ、地図帳や地球儀などで具体的に調べ、白地図などに書き表すことにより、我が国の位置と領土を具体的にとらえることである。その際、領土については、**北方領土の問題についても取り上げ、我が国固有の領土である、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島が現在ロシア連邦によって不法に占拠されていることや、我が国はその返還を求めていることなどについて触れるようにする。**

B 中学校社会（地理的分野）

<中学校学習指導要領（平成20年3月公示）>

2 内容

- (2) 日本の様々な地域

ア 日本の地域構成

地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる。

- (4) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アについては、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 「領域の特色と変化」については、我が国の海洋国家としての特色を取り上げるとともに、北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること。

<中学校学習指導要領解説・社会編>

2 内容

- (2) 日本の様々な地域

我が国は四面環海の国土であるため直接他国と陸地を接していないことに着目させ、国境がもつ意味に

ついて考えさせたり、我が国が正当に主張している立場に基づいて、当面する領土問題や経済水域の問題などに着目させたりすることも大切である。

その際、「北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること」(内容の取扱い)とあることから、北方領土(歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島)については、その位置と範囲を確認させるとともに、北方領土は我が国の固有の領土であるが、現在ロシア連邦によって不法に占拠されているため、その返還を求めていることなどについて、的確に扱う必要がある。また、我が国と韓国の間には竹島をめぐる主張に相違があることなどにも触れ、北方領土と同様に我が国の領土・領域について理解を深めさせることも必要である。

* 今後はもっと詳細な実態把握を行う必要があると考えている。『根室管内北方領土学習研究会 平成20年度研究紀要 学びつぐ四島(しま)』の36ページに収録されている、函館市立本通り中学校3年B組の社会科学学習アンケートの実践をアレンジさせていただいて、次年度の詳細な実態把握に努めたいと考えている。

(4) 単元の指導計画

- 1 北方領土の歴史概論
- 2 北方領土の地理概論 【本時】

(5) 1時間目の指導計画「北方領土の歴史概論」

① 1時間目の目標

- ・ 北方領土の位置と名称について、的確に把握する。【思考判断】【技能表現】【知識理解】
- ・ 北方領土が日本固有の領土であることの理由を探究する。【思考判断】【技能表現】【知識理解】

② 1時間目の指導計画 (50分)

	学習内容	学習内容と評価の観点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ レディネステスト アンケートの結果公表 ・ 北方領土の位置と名称 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実確認 【知識理解】(習得) ・ ワークシートにより既存知識の整理 ・ 歯舞群島の名称変更についても触れる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北方領土の位置と名称 ・ 北方領土は、日本固有の領土の理由 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考判断】(活用) ・ 千島列島が掲載されている地図に導入部での知識を活用し、記入させる。 【知識理解】(習得) ・ 追加として、樺太(サハリン)、シムシユ島、ウルップ島を記入させ、北方領土の位置を大観させる。 【知識理解】【技能表現】(習得・活用) ・ 日本の立場をはっきりと伝えるため、4つの条約について触れ、歴史的変遷を確認させる。 ・ 地図を活用し、領土の変遷を確認させる。
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回は地理的な観点で北方領土を考えよう。

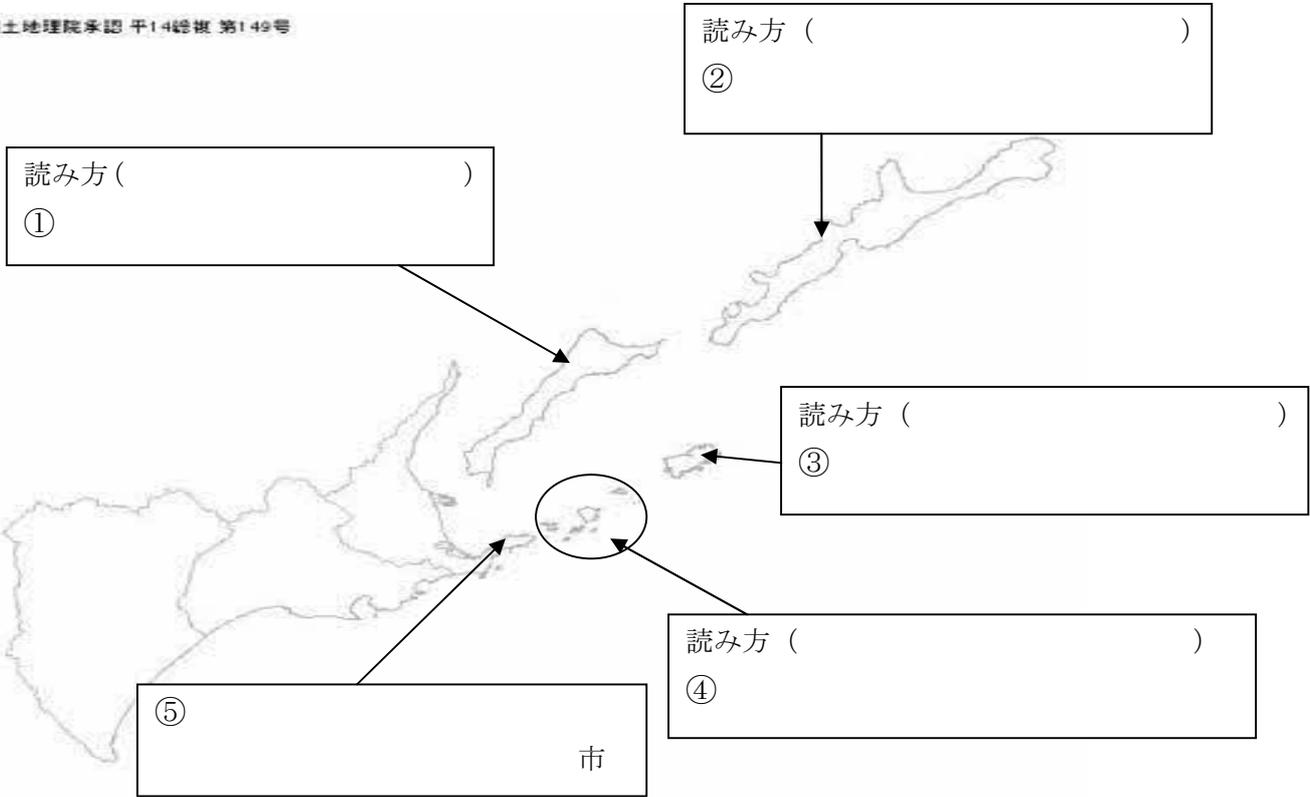
NO1	ほっぽうりょうど れきしがいるん 北方領土の歴史概論	1年()組()番 氏名【 】	評価印
-----	--------------------------------------	--	-----

*概論とは:「全体のあらましを要約して述べること」です。全2回の地理Aでの北方領土学習を通して小学校
 中学校で習ったことの復習や少しばかり発展的な学習を行います。 NO2は「地理概論」です。

【1】北方領土の位置と名前をしっかりと覚えよう。～根室市民、北海道民の責任として～

【習得】

国土地理院承認 平14総復 第149号



.....
 ○上の地図を参考に下の地図に北方領土を書き込もう。漢字でしっかり書き込もう。

【活用】



【2】北方領土は、なぜ「日本固有の領土」なのか。～日本国の主張 4つの条約と領土の移り変わり～

<<北方領土は1855年からずっと日本の領土>>

A 1855年2月7日

〔①〕

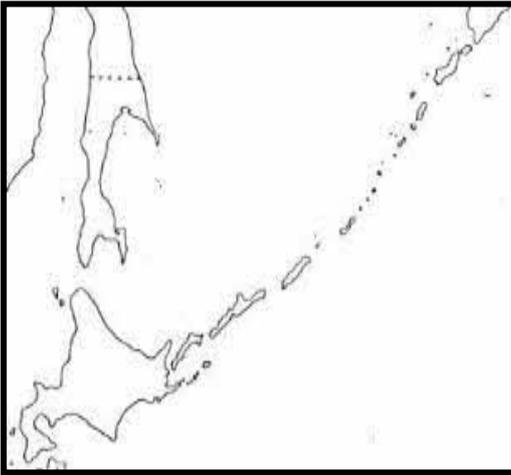
日ロ最初の国境の決定

国境線は〔②〕と〔③〕の間

〔④〕(現サハリン)は雑居地ざっきょち

交渉相手はプチャーチン

*1854年にアメリカの〔⑤〕が来航



B 1875年(明治8年)

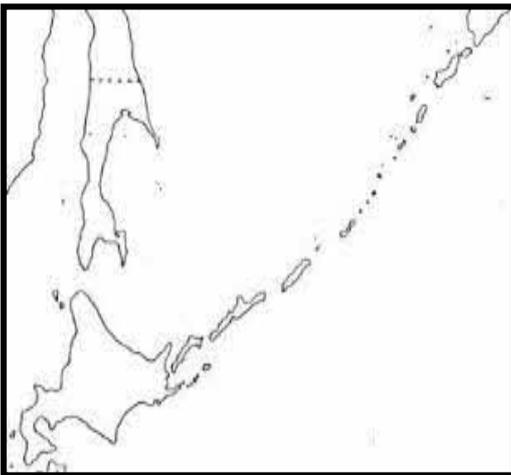
〔⑥〕

明治時代に入ると国境を決めていなかった樺太にロシア人が多く入ってきて争いが絶えなかったため、話し合いをして、樺太を〔⑦〕とし、交換に〔⑧〕

より北の島々を日本の領土とした。

<別名 サンクトペテル条約>

*特命全権大使 榎本武揚



C 1905年(明治38年)

〔⑨〕

1904年 日本とロシア帝国との間で〔⑩〕戦争が
おこり、樺太の南半分が日本の領土となる。

1945年8月9日、ソ連は1941年に署名され、当時有効であった日ソ中立

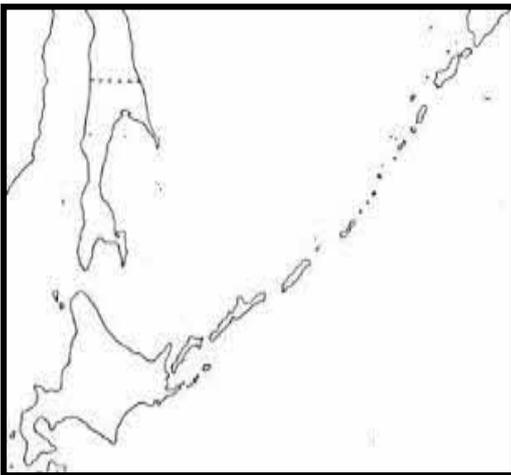


条約を無視して対日参戦。ソ連は8月18日から千島列島を攻撃開始。24日シムシユ占領。31日ウルップ占領。29日択捉占領。9月1～4日まで国後、色丹、歯舞占領。(左図参照)

D 1951年(昭和26年)

〔⑩〕

南樺太・千島列島放棄。ただ、北方四島はもともと日本の領土であるから、放棄した領土には含まれていない。← 日本の主張する「我が国固有の領土」



(6) 2時間目の指導計画「北方領土の地理概論」【本時】

① 2時間目の目標

- ・北方領土の距離的な位置関係を理解できたか。【思考判断】【技能表現】【知識理解】
- ・北方領土の現在の状況を知ることができたか。【思考判断】【技能表現】【知識理解】

② 2時間目の指導計画

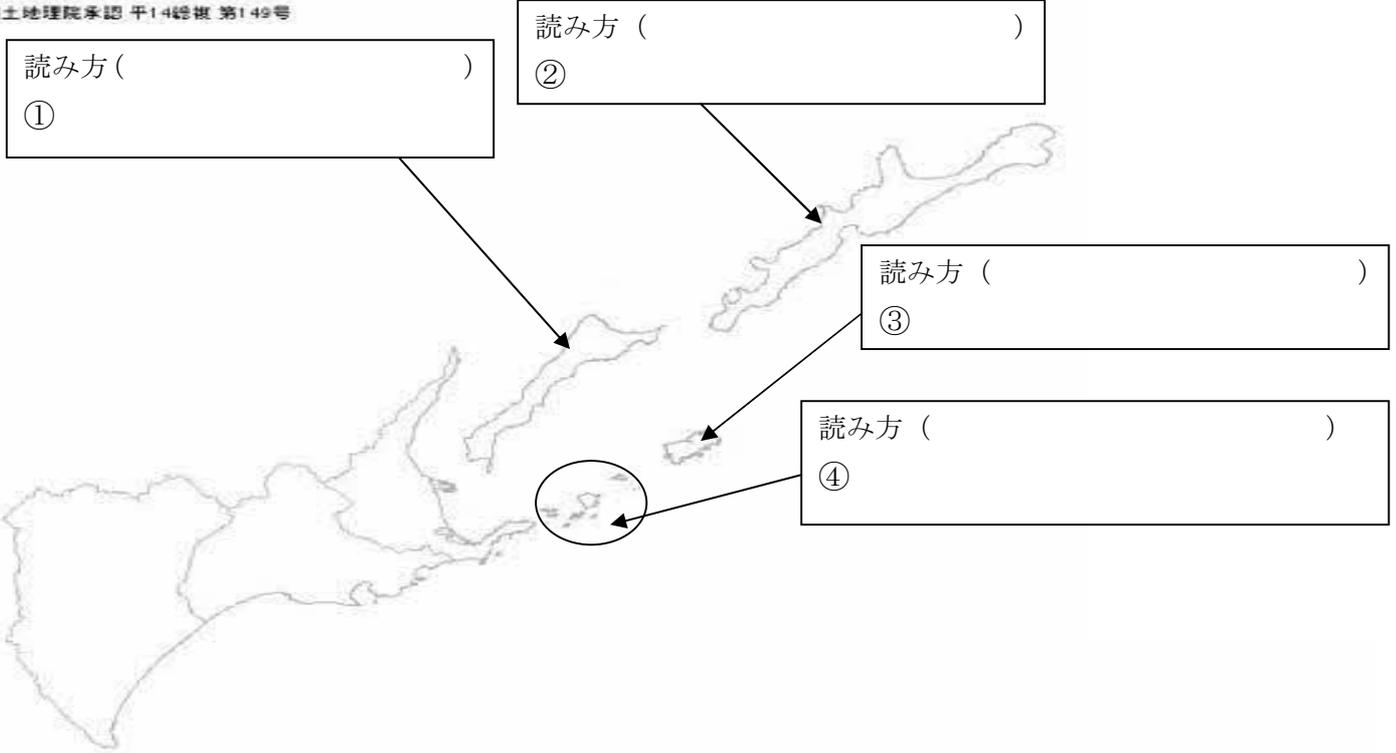
	学習項目	学習内容と評価の観点
導入	・前時の復習	【知識理解】(習得) ・北方領土の名称と位置関係を確認する。
展開	<p>・北方領土の位置と大きさ</p> <p>①北方領土と本土との距離と位置</p> <p>②北方領土の面積</p> <p>・高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」から考える。</p>	<p>【知識理解】(習得)</p> <p>・根室半島や野付崎からの四島との距離を確かめ、日本国内にある離島に比べても、近い位置にあることを理解する。</p> <p>【知識理解】(習得)</p> <p>・北方四島の面積を確認する。</p> <p>【思考判断】(活用)</p> <p>・確認した面積を、例示された島と比較する。なお例示された島については、地図帳で調べさせる。</p> <p>【思考判断】(活用)</p> <p>・元島民の思い、ロシア人の考え、そして今北方領土がどのような状況になっているのかを平成17年に高校生が制作した啓発番組から読み取らせる。</p> <p>【思考判断・技能表現】(探究)</p> <p>・このビデオをみて、北方領土について考えたことやわかったことを書かせることにより、現状の理解と北方領土問題を考えさせるきっかけとしたい。</p>
整理	授業のまとめ	まとめ

NO2	ほっぽうりょうど ちりがいるん 北方領土の地理概論	1年()組()番 氏名【 】	評価印
-----	------------------------------	------------------------	-----

*概論とは:「全体のあらましを要約して述べること」です。全2回の地理Aでの北方領土学習を通して小学校
中学校で習ったことの復習や少しばかり発展的な学習を行います。

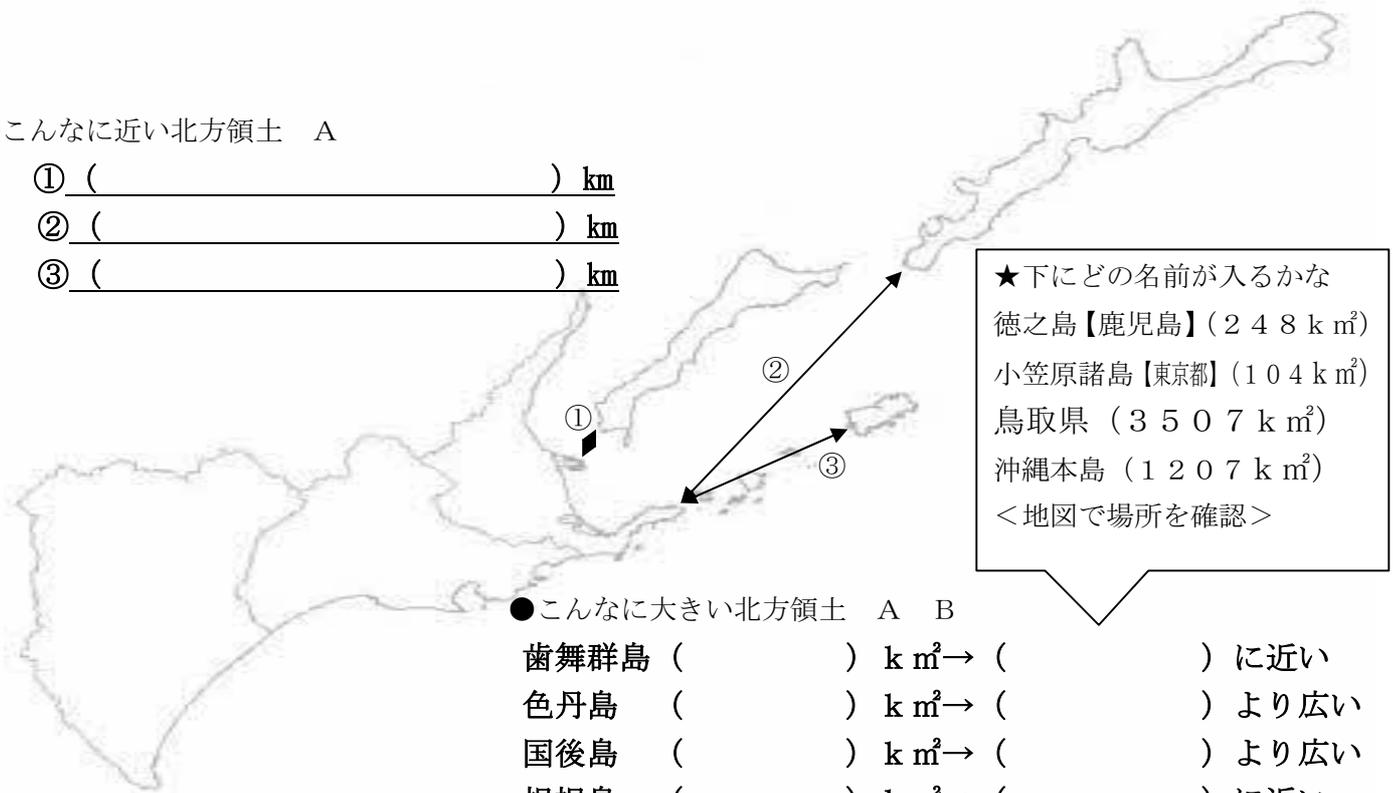
【1】北方領土の位置と大きさ(まずは復習→そして発展) 何もみないで書いてみよう!! A

国土地理院承認 平14総復 第149号



●こんなに近い北方領土 A

- ① () km
- ② () km
- ③ () km



★下にどの名前が入るかな
徳之島【鹿児島】(248 km²)
小笠原諸島【東京都】(104 km²)
鳥取県(3507 km²)
沖縄本島(1207 km²)
<地図で場所を確認>

●こんなに大きい北方領土 A B

- 歯舞群島 () km² → () に近い
- 色丹島 () km² → () より広い
- 国後島 () km² → () より広い
- 択捉島 () km² → () に近い

【3】高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」

C

→ 本編（15分）

リーダー・ナレーション	海道 真以	札幌静修高校
ナレーション	村田 雄基	札幌月寒高校
ナレーション	穴吹 華織	札幌白石高校
構成台本	立花 里奈	小樽潮陵高校
撮影	内藤 美里	札幌白石高校
スチール	小谷まどか	札幌静修高校
音声	飯田 亮介	札幌月寒高校
サブリーダー・編集	金山 優	札幌日大高校

旧ソ連軍による北方領土の不法占拠により、返還要求運動がスタートして 60 年、目に見える外交交渉の進展もなく、返還要求運動の中心となっている元島民は、故郷に帰ることを夢見ながら既に約半数が亡くなっています。

この番組は、今後北方領土返還要求運動を担うであろう若い世代への啓発を目的として、道内から選ばれた高校生放送局員 8 人が制作した番組です。

北方領土問題の知識も関心も薄かった 8 人が、平成 17 年 3 月から 9 カ月間をかけて、実際に根室や北方領土に行き、日本人の元島民やロシア人の島民などいろいろな人に取材し、制作した番組です。



この映像をみて、この北方領土についてあなたが考えたことを書いてみよう。（評価ポイント）

2 公開授業から

2009年12月22日に、上記指導案2時間目にあたる授業を「確かな学力を育む高校教育推進事業」の一貫として公開で行った。多くの関係各位の来校もあり、多くの参観者にも恵まれ、貴重な意見を頂けるまたとない機会ともなった。また、公開授業は本校1年A組でおこない、生徒も活動的かつ積極的に取り組んでくれた。

今回は実験的に「高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」の映像教材を活用した。その際、生徒への設問として、あなたが考えたことという漠然とした投げかけに対し、興味深い反応が多数あったので、一部紹介したい。

注：生徒の記載したものをそのまま載せたものや一部漢字を当て直したものもあることを了承願いたい。

○ロシア人は日本人と共同に住んだらいいというが、それはどちらの国にとっても無理ではないかと思う。威嚇（いかく）射撃で漁師が亡くなってしまった事件があり、根室の人がロシア人と共同に住むのは難しいのでは。

○色丹島や択捉島は、今はロシアの人が暮らしているが、元々日本人も住んでいたのにやっぱり大きな壁があるんだなと思いました。でも北方領土に住んでいるロシアの人々は決して日本人を受け入れてくれない訳ではないので、北方領土はロシアの方々と日本人で暮らしていけたらいいなと思いました。

○今までこのような映像を見たことは無かったので、少し驚きました。島に住んでいるロシアの人は、怖いイメージがあったけど、この映像を見ると全然そうではないことがわかりました。島に住んでいる日本人、ロシア人の方々はどのような心境なのか知りたくなりました。（中略）私は今日、この映像を見て、北方領土への考えが変わった気がします。

○今まで、ロシア人の人って島に日本人が入ってくるだけで、嫌なのかなと思っていたのですが、この映像を見て変わりました。国後島の（ロシア人の）おじさんも笑顔で接していて、すごく楽しそうでした。私も根室に住んでいながらも北方領土の事をあまりわかっていませんでした。でもこれを見て、もし私にチャンスがあるなら北方領土に行ってみたいと思いました。

○私は今日の映像を見て、あらためてこの問題は難しく、複雑だと思いました。どういった所が複雑だと思ったかという、日本人が四島を還せというのは簡単だけど、向こうには向こうの生活があって、考え方もあるから、簡単な事じゃないと思いました。

○一度、北方領土に行ってみたいと思います。北方領土には、ロシアの人々だけではなくて、違う国の人々もいました。日本人もロシア人も違う国の人々も一緒に北方領土に住めればいいのになと思います。

いくつか紹介したが、多くの生徒がこの映像視聴によって、考えるきっかけを持ち、なおかつ自分の考えをジレンマを抱えながらまとめることができたのではないかと思う。高校生の視点で作成されたこの教材は、高校生が持つ「なぜ」「どうして」という疑問を共感させる部分があり、利用してみて非常に優れた教材であることを再確認できた。

「あらためてこの問題は難しく、複雑だと思いました。」と書いてくれた生徒の思いはまさに的を得ており、

北方領土学習の授業を計画している中でも常に私自身も頭をよぎるフレーズだったように思う。また、「威嚇（いかく）射撃で漁師が亡くなってしまった事件があり、根室の人がロシア人と共に住むのは難しいのでは。」と投げかけた生徒の言葉も、この根室に住み、授業を行うものとして重く受け止めなければならない言葉のようにも感じた。

「今までこのような映像を見たことは無かったので、少し驚きました。」と書いてくれた生徒の驚きは大変伝わり、天気の状態によっては北方領土の島々を根室から見ることはできても、その島内の状況までは中々知るすべはないという現状を私たちに認識させてくれた感想であったように思う。

3 高等学校地理歴史科「地理A」の授業を考えるー地理Aの目標を達成するためにー

ここで考える「地理A」授業の展開例は、先に示した指導案が初級編だとすれば、中級編ないし高等学学習指導要領地理歴史科の目標を達成するための展開の一例である。義務教育段階（初等教育、前期中等教育）の接続を意識するため、平成17年3月に根室教育研究所の作成した『研究紀要第96号 「北方領土」学習実践事例集Ⅲ』を参考に、その後の高等学校としての展開例を模索してみたい。展開の前提として「3時間で教える北方領土」という命題を事例集が貫いているので、本展開例もその実践を踏襲したいと考えている。

(A) 3時間で教える北方領土 ー義務教育段階の接続を考えるー

以下、根室市教育研究所作成の上記事例集を参考に「地理A」の学習内容の接続を考える。

校種	学年・分野・科目	学習内容	目標
小学校	第3学年	北方領土の様子 ○島内の様子と自分たちの町の比較 ○地図上で位置や名前の確認 ○北方領土のことについて本や資料、インターネットなどで調べる	北方領土についての基礎的な知識を身につけるとともに、今後への興味・関心を含ませる。
	第4学年	北方領土の開拓 ○正保御国絵図を見て、江戸時代に開拓したことを知る。 ○当時のくらしぶりやそれまでの開拓の苦勞を知る。	地域や北方領土の発展に尽くした先人の苦勞や、当時の生活について知る。
	第5学年	北方領土の産業 ○北方領土の位置や面積、気候を比べる。 ○北方領土は水産業が盛んであることを知り、日本とのかかわりについて調べる。 ○教科書やインターネットで北方領土を取り巻く問題について調べてまとめる。	北方領土の産業についての基礎的な知識や、両国間のかかえる問題について学び、一人ひとりが自分の考えをもとに行動できるようにする。
	第6学年	北方領土の歴史 ○北方領土に関わる条約と領土の移り変わりを確認する。	北方領土への正しい歴史の認識の上で、一人ひとりが自分自身の判断や行動へとつなげていけるよう

		<ul style="list-style-type: none"> ○北方領土にかかわる人がたくさんいることを知る。 ○返還後の北方領土をどのようにしたらいいか考える。 	にする。
中学校	地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○北方領土の位置や様子をいろいろな資料からとらえる。 ○北方領土と根室の産業について知り、安全操業、拿捕について考える。 ○漁業に携わる人々のために必要なことを考える。 	北方領土にかかわる地理的な知識を深め、水産業とのかかわりから生活に密着した問題であることを知る。
	歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○年表から北方領土にかかわる歴史を確認する。 ○条約による国境の変遷を整理する。 ○北方領土の歴史的主張とその根拠を知る。 	歴史の流れを見ることによって、日本が「北方領土は固有の領土である」と主張する根拠とロシア側の主張について推測することができる。
	公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○北方領土問題に関する条約や両国の主張の違いを調べる。 ○たくさんの人々の思いがあること、これまでの友好活動を知る。 ○北方領土についての自分の意見をもつ。 	条約の内容から北方領土問題について知り、様々な思いをふまえて今後どのようにすればよいのか考える。
高等学校	地理A	<ul style="list-style-type: none"> ○わが国の抱える領土問題について再確認させ、身近な地域である北海道の重要な課題である「北方領土問題」について認識させる。 ○北方領土の位置と領域、経済水域を確認し、国境の持つ意味と現状を考察する。 ○現在の北方領土の現状を知り、元島民と現島民の思いを知る。 	世界的視野から日本の位置をとらえ、日本の領域をめぐる諸問題を的確にとらえる。 国境のもつ意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響を考察させる。

注：義務教育段階までの学習内容と目標については、前掲の根室市教育研究所作成の事例集Ⅲを引用した。

(B) 学習指導案の展開例

地理歴史科学学習指導案（地理 A）

(1) 単元名 私たちの地球をみつめる 『国家と地域区分「北方領土」』

*使用教科書 4 6 帝国 地A-0 1 3 『高等学校 新地理A 初訂版』 帝国書院

4 6 帝国 地図-0 1 1 『地歴高等地図－現代世界とその歴史的背景－』 帝国書院

*単元観及び生徒の実態は、学校の状況を考え各学校で作成されると良いと思います。

*教師用参考書として、根室市役所総務部北方領土対策室領土対策係『日本の領土 北方領土』根室市・北方領土問題対策協会が領土の詳細について詳しい。

(2) 単元の目標（上記教科書の観点別評価基準に則した。）

- ・国家の領域や地域区分の概念について関心を高め、意欲的に取り組む。
- ・国家の領域・地域区分に関する地理的事象から課題を設定し、追求する。
- ・日本の領域を正しく捉えるとともに、日本の様々な指標で地域区分し、まとめたり発表する。
- ・国家の三大要素や地域区分の概念に関する知識を身につける。

(3) 単元の指導計画

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1 私たちの星、地球 | 6 国家と地域区分Ⅰ（ 国家の領域と地域区分 ） |
| 2 地表面のとらえ方と球面状の位置 | 7 国家と地域区分Ⅱ（ わが国の領土問題 ） |
| 3 球面と平面の世界 | 8 国家と地域区分Ⅲ（ 北方領土の現在 ） |
| 4 世界地図の種類と特徴 | ↑ 「ふるさと学習の位置づけ」 |
| 5 時差の求め方 | |

(3) 各本時の指導計画案

北方領土学習に関わる単元の指導計画は6、7、8にあたる部分です。主な内容は以下の通り

	単元名	内容
6	国家と地域区分Ⅰ（国家の領域と地域区分）	・国家の領域（国家の構成要素、国家の領域、排他的経済水域） ・さまざまな国境（自然的国境、人為的国境） ・地域区分 ・日本の領域
7	国家と地域区分Ⅱ（わが国の領土問題）	・日本の領土問題（竹島、尖閣諸島、北方領土） ・北方領土の歴史的経緯
8	国家と地域区分Ⅲ（北方領土の現在）	・北方領土の現在 （ビザなし交流など、現在の領土の状況を知る）

以下の指導案は、上記指導計画案8について作成する。6・7については数多くの実践例があり、多様な実践例に譲ることとする。

(4) 国家と地域区分Ⅲ (北方領土の現在)

①目標

- ・北方領土の現在の状況を知ることができたか。【知識理解】
- ・北方領土の元島民と現島民の思いから、問題を考えることができたか。【思考判断】【技能表現】

②指導演案

	学習項目	学習内容と評価の観点
教える (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習 ・説明 (ビザなし交流、北方領土の現状) (説明 10分 DVD 15分) 	① 本時までの学習事項を確認する。 ② 本時の学習課題を確認する。 ③ ビザなし交流とは ④ 現在の北方領土を知る (DVD) <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」を活用し、現在の四島の様子や元島民、現島民の思いなどを知る。 ・元島民の思い、ロシア人の考え、そして今北方領土がどのような状況になっているのかを平成17年に高校生が制作した啓発番組から読み取らせる。 ・授業者は、平成17年度の同時期に色丹島に渡っているため、別紙資料などで補足する。
考えさせる (展開)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解、確認 	⑤ DVDに出てくる地名など、島の位置関係を地図で確認する。(元島民や現島民がどこに住んでいるのかの確認) ⑥ 元島民の思いや現島民の思いをDVDの中で読み取り、発表させる。(DVD視聴時にメモをさせておく)
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・理解、深化 	⑦ このDVDなどで、我が国固有の領土である「北方領土」について理解できたことや考えたことをまとめる。

③評価

- ・北方領土の現在の状況を知ることができた。【知識理解】
- ・北方領土の元島民と現島民の思いから、問題を考えることができた。【思考判断】【技能表現】

NO	北方領土の現在	()年()組()番 氏名【	評価印
----	---------	---------------------	-----

【A】高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」

→ 本編（15分）

リーダー・ナレーション	海道 真以	札幌静修高校
ナレーション	村田 雄基	札幌月寒高校
ナレーション	穴吹 華織	札幌白石高校
構成台本	立花 里奈	小樽潮陵高校
撮影	内藤 美里	札幌白石高校
スチール	小谷まどか	札幌静修高校
音声	飯田 亮介	札幌月寒高校
サブリーダー・編集	金山 優	札幌日大高校

旧ソ連軍による北方領土の不法占拠により、返還要求運動がスタートして60年、目に見える外交交渉の進展もなく、返還要求運動の中心となっている元島民は、故郷に帰ることを夢見ながら既に約半数が亡くなっています。

この番組は、今後北方領土返還要求運動を担うであろう若い世代への啓発を目的として、道内から選ばれた高校生放送局員8人が制作した番組です。

北方領土問題の知識も関心も薄かった8人が、平成17年3月から9カ月間をかけて、実際に根室や北方領土に行き、日本人の元島民やロシア人の島民などいろいろな人に取材し、制作した番組です。



<DVD視聴メモ>

- 1 DVDに出てきた地名

- 2 元島民の思い

- 3 現島民の思い

今回の訪問は、7月29日（金）から8月1日（月）の4日間、岡田一憲団長をはじめ中学生・高校生・教育関係者を中心とした60名前後の団員構成で北方領土（色丹島）を目指した。交通手段は「ロサ・ルゴサ号（480トン）」の旅客船で、国後島の古釜布（ふるかまっぷ）沖経由で、色丹島穴間（あなま）港を目指すという旅程であった。

根室港本町側岸壁を出発し色丹島穴間沖までの第一日目の船旅



▲穴間港にて
(旧ソ連製の船が船着場として利用)

は、天候にも恵まれ快適な状況にあった。航行の途中イルカが船の後を追ってくる光景は、生徒の印象に深く残ったことであろう。国後島の古釜布での入域手続きは、ロシア側の「友好の船」と海上で接近し、ロシア国境警備隊も参加しながら行われた。その後、色丹島へ向かい、第一日目は色丹島穴間沖で錨泊となった。



▲建設中の小学校

第2日目は曇りがちな天気、あまり良い状況とはいえなかったが、穴間では友好的な歓迎を受けた。伝統的な歓迎方法らしく、民族衣装を着た女性による「パンの出迎え」を受けた。出迎えの後、行政を表敬訪問し、穴間市長・斜古丹市長の歓迎の挨拶を頂いた。



▲ホームビジット先での楽しいひと時

行政訪問の後、ロシア語講習も兼ねて「穴間小学校」を訪問した。この小学校は、先の大地震の影響もあり、仮のプレハブの小学校が使われていた。しかしながら、プレハブの小学校の隣には、今まさに鉄筋で建設中の小学校があり、徐々にではあるが地震からの復興が進んでいるようだった。小学校では、小学校の教員や小学校に通う児童が中心となり、我々訪問団に日常会話として使える簡単な「ロシア語」を教えていただいた。ほぼ挨拶程度の会話であったが、この講習のおかげでこの後の日程を乗り切ったとい

っても過言ではなかった。このロシア語講習の後、「ホームビジット」として、ロシア人の各家庭へ訪問するのだが、言葉もわ

からない我々に大変親切、かつ気さくに接していただけたことは大変ありがたかった。私たち北海道根室西高等学校の面々も、緊張しながら各家庭へ訪問したのだが、ロシアの伝統的な料理「ボルシチ」をはじめ、日本でいうところの「トンカツ」のような食べ物など、テーブルいっぱいの料理で迎えられた。ぎこちないながらも会話は弾み（とはいっても、通訳を介さず、会話集のみを頼りにした会話だったので、会話をしながら通じているのか、そうでないのかがさっぱりわからなかった。ただ、冷や汗はたくさんかいたような気がする。）、大変充実した時間を過ごすことができた。ロシア人の家庭を見させていただいて気づいたことは、島民全員がそうではないと思うが、意外と裕福な家庭も多そうだということである。パソコン、デジタルカ

メラ、インターネット、衛星放送の普及など電化製品の普及状況を見れば一目瞭然であった。



▲日本人墓地の視察

また、その家庭の末っ子の男の子（小学生低学年ぐらいであろうが）が、突然「こんにちは」と話し出したときは少々驚いたが、聞けば今年の春に根室に来ており、さらには日本語の検定も受け、誇らしげにその検定の認定証を見せてくれたときにはなにやら納得した。その後、対話集会を経て夕食交流会となるわけだが、そこで催されたロシアの方々の踊りには目を見張るものがあった。

第3日目は、あいにくの天気で朝から雨が降っていた。そのため、

予定されていた日程の一部が変更になり、日本とロシアの生徒同士の

スポーツ交流が無くなってしまったことは大変残念なことであった。この日は、水産加工場の視察や日本人墓地・ロシア正教会の視察、国境警備隊（海軍）の祭りの視察など多くの日程が組まれていた。特に日本人墓地の視察は、ここが日本固有の領土であることを実感できる場所であることを認識するとともに、元島民のご苦勞を知る良い機会となった。また、国境警備隊（海軍）の祭りは、実弾こそ飛び交うことはなかったものの、戦車・戦艦・ライフル等を用いたお祭りであり、日頃そういったものを見る機会がない私たちにとって、驚きを隠せない祭りであった。祭りの始まる前後に、商店で買い物をする時間を与えられたが、日本の商店とは違い、ウオッカ、チョコレート、パン、雑誌、ペン、衣類、電化製品などを扱う「何でも屋」的な様相を呈していた。我々もお土産などをそこで買うことになるのだが、やはりここでも言葉の壁が大きく、通訳の方々にはご尽力いただいたことが印象深く残っている。スポーツ交流が中止になってしまったため、現地の方々による発表会が開かれた。（日本でいうところの）ママさんコーラスや小さな子どもによる発表など、元気な歌声・かわいらしい歌声を聴き、有意義な時間を過ごすことができた。この日の最後の別れの瞬間には、ロシア・日本双方の青少年が別れを惜しみ、最後まで手を振っていたのが印象的だった。



▲ロシア海軍の演習風景



▲陽気なロシア人の人々

この報告書は平成17年度に色丹島へ生徒引率ビザなし訪問へ行ったときの報告書です。若干読みにくい部分がありますが、当時の雰囲気を残すために、一部修正はあるものの、ほぼ当時のままの文章として印刷した。

【B】北方領土についてあなたが理解したことや考えたことを書いてみよう。（評価ポイント）

【地理A】

<高等学校学習指導要領（平成21年3月公示）>

2 内容

(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察

ア地球儀や地図からとらえる現代世界

地球儀と世界地図との比較，様々な世界地図の読図などを通して，地理的技能を身に付けさせるとともに，方位や時差，日本の位置と領域，国家間の結び付きなどについてとらえさせる。

3 内容とその取扱い

アについては，球面上の世界のとらえ方に慣れ親しませるよう工夫すること。日本の位置と領域については，世界的視野から日本の位置をとらえるとともに，日本の領域をめぐる問題にも触れること。また，国家間の結び付きについては，世界の国家群，貿易，交通・通信，観光の現状と動向に関する諸事象を様々な主題図などを基にとらえさせ，地理情報の活用の方法が身に付くよう工夫すること。

<高等学校学習指導要領解説・地理歴史編>

「日本の位置と領域」のうち，「日本の位置」については，「世界的視野から日本の位置をとらえる」（内容の取扱い）と示されていることに留意し，例えば，地球儀と世界地図を活用して，世界各地に中心を移してそこから見た場合の日本の位置の特色をとらえさせるようにするなどの工夫が考えられる。また，「日本の…領域」については，「日本の領域をめぐる問題にも触れること」（内容の取扱い）と示されていることに留意し，**北方領土など我が国が当面する領土問題や経済水域の問題などを取り上げ，国境のもつ意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察できるようにする。**なお，北方領土など我が国が当面する領土問題については，中学校における学習を踏まえ，我が国が正当に主張している立場に基づいて的確に扱い，領土問題について理解を深めさせることが必要である。

5 まとめ

今回のこのレポートは、高等学校の「地理A」を基軸とした実践例である。準備不足や経験不足によりこのレポート自体が遅れてしまったことに悔いが残る結果となってしまった。しかしながら、本校においてこの事業そのものが私自身や勤務校の「北方領土学習」をとらえ直すよいきっかけとなり、今後の計画に大きな影響を与えたことは間違いのない事実である。

2010年2月に、レディネステストで行った内容の再調査を行った。その結果77名中全て漢字で書き、なおかつ島名を的確に示すことができたのは61名の79%。前回調査の30%台からの大躍進である。まだまだ課題はあるのだが、「北方領土学習」の第一歩としては上出来ではないだろうか。

<補足資料1>

あなたのデータ 学年（ ）年

名前は無記入でOKです（このアンケートの結果は集計され、今後の北方領土の学習に利用する予定です）

下記の地図中に①～④までの島の名前を記入なさい。漢字で書ける場合は漢字で記入してください。

- ①はぼまいぐんとう ②しこたんとう
④なしりとう ④えとろふとう



<補足資料2>実施に関わったの参考にした資料

- ・根室市役所総務部北方領土対策室領土対策係 『日本の領土 北方領土』
北海道根室市・北方領土問題対策協会 2008、1
- ・外務省『われらの北方領土 2008年度』 外務省 2009、3
- ・北海道教育庁指導部学校教育課 『学校教育指導資料 北方領土』 北海道教育委員会 1975、3
- ・北海道教育庁学校教育部小中学校課 『学校教育指導資料（改訂版）北方領土』
北海道教育委員会 1985、10
- ・根室教育研究所『研究紀要 第96号 「北方領土」学習実践事例集Ⅲ』根室教育研究所 2005、3
- ・根室管内北方領土学習研究会『平成20年度 研究紀要 学びつぐ四島』根室管内北方領土学習研究会 2009、3

平成21年度にサポートチームからの助言によって行われたレディネステストであったが、本事業も2年目となり、より詳細な生徒の状況を知るためレディネステストの改訂を行った。島の位置や名称に加え、国境線の認識や正しく人に説明できる用語などを調査対象とし、より丁寧な指導が行えるように工夫改善を行った。

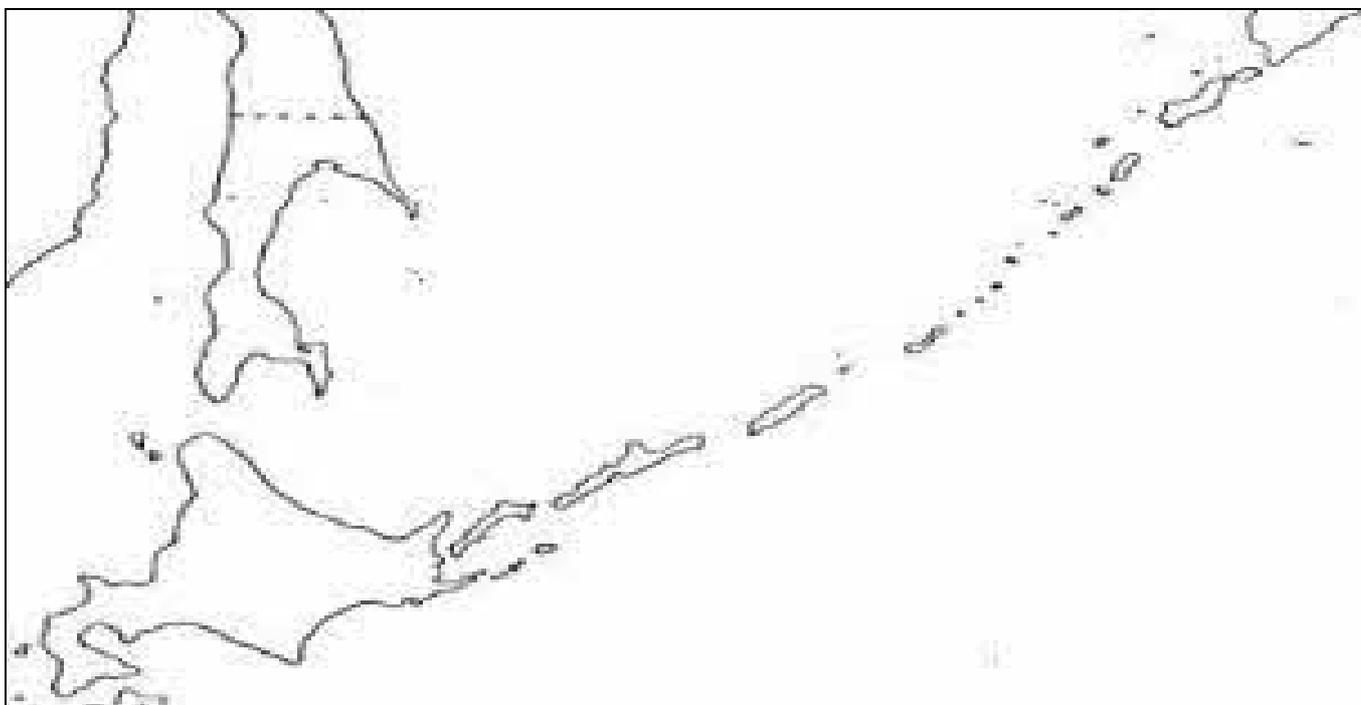
高等学校北方領土学習 学習準備テスト

()年()組 ()番 氏名()

☆これからの学習の参考にしたいと考えています。正解や不正解を気にしないで記入してください。

① 下記の地図中に①～④までの島の名前を記入なさい。漢字で書ける場合は漢字で記入してください。

- ①はぼまいぐんとう ②しこたんとう
- ③くなしりとう ④えとろふとう



② 1で答えた島のうち、もっとも北に位置している島を何といいますか。 ()

③ 上記の地図に、日本国とロシア連邦の現時点の国境を記入してください。

④ 次の語句であなたが知っているもの（きちんと人に説明できるもの）に○をつけてください。

- ビザなし訪問 日露通好条約 返還運動 千島列島 2月7日 樺太千島交換条約 根室市
 ポーツマス条約 納沙布岬 花咲ガニ サンフランシスコ平和条約 松前藩 占守島
 アダム・ラクスマン 近藤重蔵 高田屋嘉兵衛 安藤石典 マッカーサー 望郷の家
 千島歯舞居住者連盟 ソ連 日ソ共同宣言 北方館 北方領土期成同盟 北方領土問題対策協会
 四島の架け橋 東京宣言 クラスノヤルスク合意 川奈合意 モスクワ宣言 イルクーツク声明

地理歴史科学学習指導案（地理 A）

1 単元名 『国家と地域区分「北方領土」』

*使用教科書 46 帝国地A・013 『高等学校 新地理A 初訂版』 帝国書院

46 帝国地図・011 『地歴高等地図－現代世界とその歴史的背景－』 帝国書院

*本単元は、北方領土学習（全2回）とする。

2 単元について

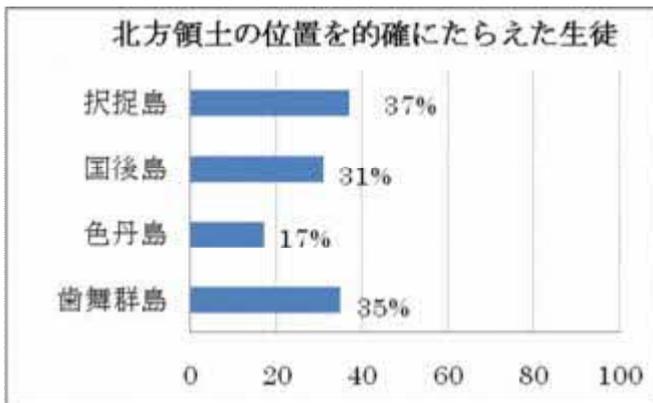
本単元は、学習指導要領の「(1) 現代社会の特色と地理的技能 ア 球面状の世界と地域構成」に位置づけられている単元であり、本来ならば、4月、5月の段階に終了してしまう単元なのだが、本校の「北方領土学習」の取り組みの関連で、一部内容を保留し、昨年同様にこの時期に実施することとなった。この「北方領土学習」は長く義務教育段階において実践を積み重ねられてきた分野である。

本単元は、地球儀や地図、略地図などを通して、地球表面の位置と領域をとらえさせる事が目的であり、日の位置と領域については、世界的視野から日本の位置をとらえるとともに、日本の領域をめぐる問題にも触れることとなっている。ここで扱う「北方領土問題」は、日本の領土問題の一つであり、根室という地域性から見ても重要な単元である。1時間目には北方四島の名称と位置を正確にとらえさせ、なぜ日本は北方領土を日本固有の領土と主張するのか歴史的背景から指導するとともに、2時間目には北方領土の現状をビザなし交流の活動やDVDを視聴し現状を知り、北方領土問題について意見が述べられるよう指導する。

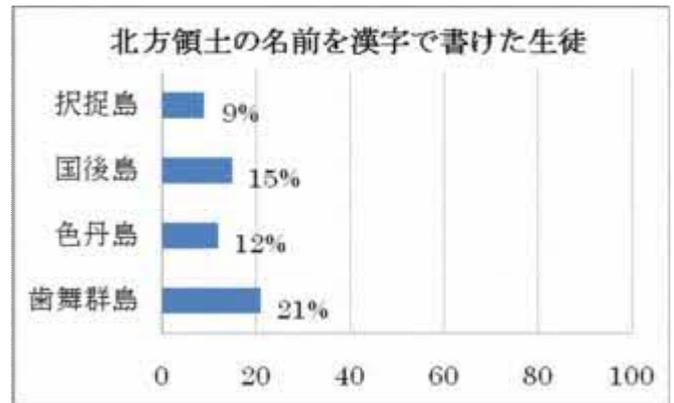
3 レディネストテストから見た生徒の実態

今回の北方領土学習を計画するにあたり、生徒の実態を把握するために学習の事前にアンケート形式のレディネストテストを本校1学年の生徒に対して行った。(別紙補足資料1参照)レディネストテストの形式は、昨年度本校の楠本学教諭が実施したものに「四島のうち一番北に位置する島は」「白地図中に日本とロシアとの国境を記入しなさい」などの項目を追加した改訂版である。欠席状況もあり、本校1学年全員回答とはならなかったが、80名程度の有効回答があった。昨年の調査結果を事前に認知していたため、今年度のおおよその結果は予測していたが、北方領土学習が盛んな地域であるために北方領土の位置や名称については「知っている」という、私自身の先入観があったことは事実である。調査結果は、「北方領土の位置が正確に答えられた生徒」の割合は、約30% (表1)、「北方領土の名前を漢字で書けた生徒」割合は、約10% (表2)であった。昨年の調査結果をみても、知識の定着がなされていない状況が見て取れる有効な調査結果となったとともに、生徒は北方領土問題を感覚的にとらえているに過ぎず、正確な知識として認識していないこともわかった。

▼表 1



▼表 2



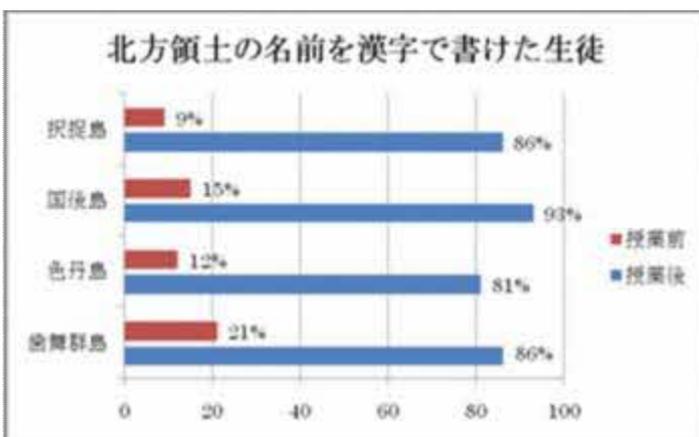
そこで北方領土学習全2回の指導計画を立てる中で、「北方領土の位置と名称」を定着させるところから始めた。出身中学校により知識のバラツキがかなりあったため、基本的事項を精選した授業展開を行うことにした。

1時間目の授業は、「北方領土の位置と名称」の知識の定着をめざし、根室から見た北方四島の位置を確認した。その後、北海道を中心とした地図を大観させ、世界地図の中の北方四島の位置を確認させた。また、我が国が北方領土を「固有の領土」とする根拠を4つの条約と国境の歴史の変遷をワークシート形式で行い、作業を通して確認できるように留意した。

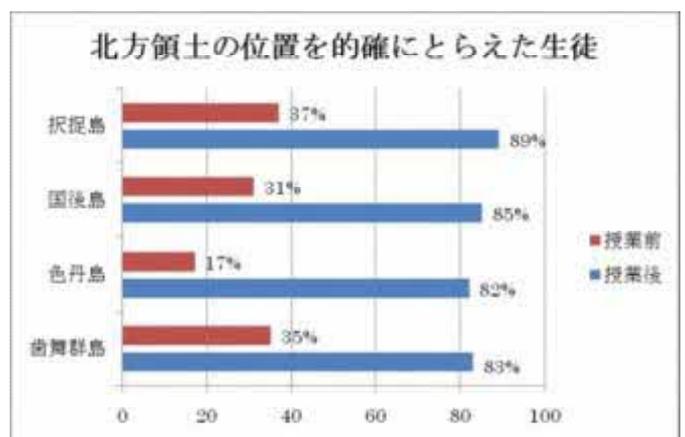
2時間目の授業では、反復で「北方領土意識の位置と名称」を確認し、知識の定着がはかれるよう留意した。また、昨年の「地理概論」の発展型として、北方領土の現状を考える授業となるよう留意した。また、「高校生が制作した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方四島～」を活用することにより、映像を通して現在の北方領土を高校生の視点で認識したり、元島民の方々への聞き取りやロシア人の主張に触れ、北方領土問題をより深化させ、考えることができるように工夫した。

「北方領土学習」後の12月20日に、再度北方領土の位置と名称の確認テストを予告なしで行った。結果は8割以上が正確な位置、名称を答えることができた。今回の確認テストの結果をみて、学習前の感覚的認識から正確な知識として身についた生徒が増えた事が読み取れる。

▼表 1



▼表 2



4 単元の指導計画

- (1) 北方領土の歴史概論 (1時間)
 (2) 北方領土の地理概論 (1時間) ※公開授業 クラス：1年B組 (1B教室使用)

5 授業について

(1) 1時間目の目標

- ① 北方領土の位置と名称について、的確に把握する。 【思考判断】 【技能表現】 【知識理解】
 ② 北方領土が日本固有の領土であることの理由を探索する。 【思考判断】 【技能表現】 【知識理解】

(2) 1時間目の展開

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
導入	1 レディネステスト アンケートの結果公表 2 北方領土の位置と名称	・11月29日に実施したアンケート結果の公表し、事実確認を確認する。 ・ワークシートにより既存知識を整理させる。	・地図帳を活用し、北方領土の位置と名称を的確にワークシートに記入することができるか。 【知】(習得)
展開	1 北方領土の位置と名称 2 北方領土は、日本固有の領土の理由	・ワークシートにより北方領土の位置と名称を把握させる。 ・4つの条約により、どのように国境が変遷してきたのか確認する。	・千島列島が記載されている地図(ワークシート)に導入部での知識を活用し、記入させる。 【思】(活用) ・追加として、樺太(サハリン)、シュムシュ島、ウルップ島を記入させ、北方領土の位置を大観させる。 【知】(習得) ・日本の立場がはっきりと伝えるため、4つの条約に触れ、歴史的変遷を確認させる。 【知】(習得) ・地図を活用し、領土の変遷を確認させる。 【技】(活用)
まとめ	今回の予告	・次回は地理的な観点から北方領土を考えることを告知する。	

【関】 関心・意欲・態度

【思】 思考・判断

【技】 技能・表現

【知】 知識・理解

(3) 本時の観点別評価の進め方

本時の目標	十分満足できる状況例
①北方領土の位置と名称について、的確に把握する。	確認プリントに、北方四島の正確な位置と名称を漢字で適切に書き込むことができる。
◇努力を要する生徒への手立て ・北海道の拡大地図を見せ、北方四島の島の大きさや位置、名称を繰り返し答えさせるよう机間支援する。	
②北方領土が日本固有の領土であることの原因を探る。	日本が主張する「北方領土は固有の領土」の理由を歴史的国境の変遷から説明できる。
◇努力を有する生徒への手立て ・ワークシートを復習させ、国境の移り変わりを確認する。 ・現在の日本とロシアの国境はどこか確認させ、日本の主張をまとめさせる。	

(4) 2時間目の目標

- ① 北方領土の現在の状況が知ることができたか。 【関心・意欲・態度】 【知識理解】
- ② 北方領土の元島民と現島民の思いから、問題を考えることができたか。 【関心・意欲・態度】 【思考判断】 【技能表現】

(5) 2時間目の展開

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
導入	1 前時の復習	○北方領土は、「日本固有の領土」と日本が主張する根拠となる4つの条約を確認させる。	○パワーポイントを使用し、簡単に前時の確認をする。 【関】【知】
	2 北方領土までの距離	○根室から北方四島の距離を確認させる。	○クイズを出し、興味・関心を引きつけ説明する。 【思】【関】【知】
展開	1 ビザなし交流とは	○「ビザ」とは何か理解する。 ○「ビザなし交流」とは何か理解する。	○「ビザなし交流」の写真を見て、興味・関心を引きつける。 【関】【知】 ○外国に入国する際に「パスポート」と「ビザ」が必要であることを確認する。 【知】 ○パワーポイントを使用し、要点を確認する。 【知】
	2 現在の北方領土を知る	○高校生が作成した北方領土啓発番組「その海の向こうに～私たちが録った北方領土～」を視聴し、現在の四島の様子や元島民、現島民の思いを知る。	○ワークシートを活用し、DVDに出てきた元島民、現島民の思いなどメモをとらせ、発表させる。 【関】【思】【技】

まとめ	まとめ	○北方領土学習（全 2 回）を受けて、北方領土について理解したことや考えたことをまとめる。	○机間巡視を行い、生徒の活動を確認する。 ○北方領土学習を受けて、自分の意見を書かせる。 【関】【思】【技】
-----	-----	---	---

【関】 関心・意欲・態度

【思】 思考・判断

【技】 技能・表現

【知】 知識・理解

(6) 本時の観点別評価の進め方

本時の目標	十分満足できる状況例
②北方領土の元島民と現島民の思いから、問題を考えることができたか。	DVD を視聴し、元島民と現島民の思いを知り、北方領土問題について自分の意見を持つことができた。
◇努力を有する生徒への手立て ・メモを取らせながら視聴し、視聴後元島民と現島民の思いをまとめさせ、前時の復習をしながら自分の考えが述べられるように机間支援を行う。	